

第 1437 回例会報告

平成27年11月26日(木)雨

会長挨拶

会長 御子柴文夫

性悪の世界に性善の光を照らそう

トルコとシリア国境付近でロシア軍戦闘爆撃機がトルコ軍攻撃機に撃墜されるという事件が発生しました。

国境を侵入した・しない、通告した・しないと双方の言い分は異なり、真相はわかりません。ロシアはイスラム国攻撃のとき反アサド政権でトルコ民族と近い民族の住む地域の爆撃をついでに行なっているとの報道もあり、緊張がつづいていたようです。

爆撃は人を選ばずその地に住む人々の上に降り落ちます。国と国・組織と組織により引き起こされている戦いは暮らしていた人々が被災してしまう立場に追われます。日本も第2次世界大戦終結時に同様な状況におかれました。そして現在また同様な状況に置かれている地域の方々に心から哀悼の言葉を発せずにはおれません。

本日の挨拶として11月19日信濃毎日新聞に掲載された童話を披露し、その心を示させて頂きました。

人がいかに性悪か示しており、中から生まれる性善の光も語っておられます。ロータリー活動も終局は性善の光を導き出すものと考え、一日も早く地球に住む人々が心から笑える世界を創りたいものです。

◇幹事会報告◇

1) 富士見ロータリークラブより最後の紙ベースのウィークリーが届きました。

2) 12月のロータリーレートは120円です

副幹事 太田淳也

委員会報告

【社会奉仕委員会】

諏訪湖浄化推進連絡協議会(湖浄連)から講演会の案内が来ています。興味のある方は委員長までご連絡ください。

【国際奉仕委員会】

来週からロータリー財団、米山奨学金の寄付を募ります。レターボックスに案内を来週入れますのでご確認の上ご寄付をお願いいたします

【クラブ奉仕委員会】

楽しい旅行に行ってきました。例会で詳しく報告させていただきます



頃出席報告

会員数	40名
出席対象	38名
出席者数	32名
出席率	84.2%
前回修正	97.4%

■ニコニコBOX

5名	9,000円
累計	253,000円
目標額	60万円
達成率	42.2%

■今週のことば

吉田知可さん、諏訪湖のこと、若い目で見た浄化のことなど、本日はよろしく願いいたします。

萩田 均



2015-2016年度 国際ロータリーテーマ
世界へのプレゼントになろう
Be a gift to the world

ウィークリーの原稿送付先は PR@suwakorc.net です



本日の3分間スピーチ

本日の三分間スピーチは、昨年度社会奉仕委員長の山崎会員でした。自分の家族のことやガキ大将だった生い立ちなどをスピーチしていただきました。



第 1437 回例会

信州大学山岳科学総合研究所(山地水域環境保全学部門)助成金贈呈

信州大学大学院,総合工学系研究科
研究生 吉田知可

担当 社会奉仕委員会

本日の例会は、信州大学山岳科学総合研究所(山地水域環境保全学部門)への助成金贈呈と吉田知可研究生をお招きして諏訪湖浄化の卓話をしていただきました。

最初に訪問いただいた2011年から4年たち吉田様のお話も大変分かりやすく、諏訪湖の抱える問題の複雑性も良く理解することができました。今後の研究に大いに期待いたします。



卓話終了後助成金を贈呈いたしました。

諏訪湖における溶存酸素濃度の経年変化

今日お話しすることは

- ・諏訪湖の溶存酸素濃度の経年変化
- ・諏訪湖の溶存酸素濃度の変化に関わる環境要因の検討
- ・今後の研究について です。

諏訪湖の溶存酸素濃度の経年変化をみてみま

すと、もともと大気中の酸素にくらべ水中の酸素濃度は低いのですが、それでも諏訪湖の湖底の貧酸素化が進行しており問題になっています。水中酸素濃度が落ちると生物の生息環境が悪化し生態系に深刻な影響を与えます。

2010年 長野日報「湖底の無酸素対策を」

2012年 長野日報「貧酸素化5月中旬にも」

などの記事によって、近年変化が著しく早急な貧酸素の実態解明が重要となります。



諏訪湖の溶存酸素濃度の変化に関わる環境要因の検討をしてみると次の3点を思いつきます

①水温:水面と底面の温度差が拡大し密度差が生じ、混ざらない。これは間違いなく原因の一つと考えられる。

しかし表層と底層の水温の経年変化と諏訪湖の平均気温と諏訪湖の平均水温の変化を比較してみるとはっきりした相関性が見取れないので、なぜ諏訪湖の温度差が拡大したか検討が必要

②植物プランクトン:植物プランクトンの減少による酸素供給量の減少を考えると、植物性プランクトンが減少しているようには見えないので原因としては疑問。ただし光が湖底まで届かないと植物プランクトンは逆に酸素を消費するのでそうしたことはあるかもしれない。

③風:風速の低下による混合の抑制を考えると、酸素が水中に取り込まれるためには風は有効であるが、諏訪湖の風速の経年変化は昔と変わらないので原因として風は考えられない。

今後の研究について

①底質の分析

底質に含まれる硫黄など各種物質が影響しているのかしっかり研究する必要があります

②酸素の供給と消費量

大気中から水中に溶解込む酸素量とともに底泥の有機物の分解に使われる酸素量の研究が大切と考えます。